

1 本年度の学校教育目標

「ふるさととつながり 仲間とともに“在りたい未来”を創造する 養父っ子の育成」

2 本年度の学校重点目標

- (1) 夢や目標に向かって、主体的に挑戦する態度を育成する。
- (2) 「生きる力」を育む教育を推進する。
- (3) 子どもたちの学びを支える仕組みを確立する。
- (4) 学校・家庭・地域が連携し、ふるさとを愛する心を育てる。
- (5) 教職員としての資質能力の向上を図ると共に、業務改善を推進する。

3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善) 太字は改善方策です

分野	評価項目	達成状況	学校の取組状況・改善の方策
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 「今日も養父小にきてよかった」と思う学級や学校にすることができたか。 「地域とともにある学校づくり(含むコミュニティスクール)」を推進できたか。 チーム養父の一員として、協働的に仕事ができただか。 時々の課題に対応し、取り組めたか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 第1回生活アンケートでは、「学校で楽しく安心して過ごしている」に対して、児童・保護者とも肯定的に捉えていただいた回答が100%であった。第2回については、肯定的な回答が児童95%・保護者98%を超えていた。引き続き、100%を目指した学校運営を推進していく。 養父校区自治協議会やPTAの方々と連携して、様々な活動に取り組むことができた。(鯉料理体験、ホタル学習、町探検、牛牛見学、グラウンドゴルフ大会、お手玉の会等) 地域コーディネーター、やぶっ子ちよこつと応援団の皆様には多くの場面でたくさんのご支援をいただくことができた。 PTA奉仕作業では、40名を超える地域の方にもご協力いただいた。 登校しにくい児童へは、校長をリーダーに、不登校担当、生活指導担当を中心とした対応チームでの会議を即時開催し、専門機関の協力も得ながら、チーム学校として動くことができた。今後もこの態勢を継続維持していく。 職員間には、どんな些細なことでも相談しやすい雰囲気づくりが行われている。 防災教育では、地域の方と連携しながら授業を進めることができた。
確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> 児童の主体性は育っているか。 児童のコミュニケーション力、表現力は高められているか。 学習タイム(ドリルタイム)等により、基礎・基本の定着が図られているか。 ICT機器(含タブレット)を活用して、学習活動の充実が図れたか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童会活動や委員会活動では、児童が主体的に考えて企画・運営を行う場面を多く見ることができた。 兵庫型学習システム、専科等を生かし、専門性の高い指導、個に応じたきめ細やかな指導の充実を図ることができた。 「ロイノート」を活用し、自分の考えを論理的にまとめ、表現していく技能を高めることができた。 ドリルタイムについて、職員間の実践交流を紙面にて行い、それをもとに毎日のドリルタイムの内容を改善することができた。さらに、年度末など、成果が分かる形で児童に還元し、学習意欲向上にもつながっていくと考える。 ICT機器の活用方法が固定化しているため、研修等を通じて、新たな活用方法の模索や、職員間で交流を持ってスキルアップを目指していく。まずは、教師自身が“試す”意識を持つことを大切にしたい。
豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの人権が大切にされていたか。 子どもの良さががんばりが多く見られたか。 学級活動、児童会活動、異年生集団活動など子どものつながりや活躍が見られたか。 いじめや問題行動等に適切に対応し、一人一人に寄り添った丁寧な指導が行えたか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 人権作文の掲示や人権集会の開催等、児童が積極的に人権について考える機会をもつことができた。 保護者との懇談会では、「子どもの頑張っている姿をたくさん認めていただいている。」という声をたくさん聞くことができた。 各種委員会の企画や異年齢交流等、多くの子どもたちの繋がりを見ることができた。 気になる行動をキャッチしたらすぐに関係職員に報告相談し、早期に解決することができた。教師間で相談しやすい関係を築くことができている。 「いじめアンケート」や「生活アンケート」を実施し、トラブル等の早期発見、早期対応に努めた。
健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> 子どもと一緒に遊ぶことができたか。 子どもの体力や運動能力の向上が図れたか。 睡眠、排便、歯磨きなど、健康に関する指導が進められたか。 教科や給食、栽培・調理などの体験等を通じた食育を推進できたか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 休み時間等には、子どもと一しょになって運動場で遊ぶ多くの職員の姿を見ることができた。その中でも大切な人間関係づくりを行うことができた。 本年度は「けん玉」「一輪車」に取り組む機会を多くもつことで、児童の体幹を鍛える場面を増やすことができた。 「ねるねるウィーク」による睡眠指導等、保護者の協力を得ながら取り組むことができた。 給食の残飯の量が減ってきており、食育推進について一定の成果を見ることができた。 栄養教諭をお招きし、各学年に応じた栄養指導やバランスのよい食事の摂り方等の指導を受ける時間をもつことができた。
学びを支える 仕組みの確立	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが安心して、生き生きと学校生活を送っているか。 安全点検、避難訓練など、児童の安全を守る取組は進められたか。 特別支援教育の理念に沿って、要支援児童への適切な指導や支援が行えたか。 養父校区小中一貫教育や養父こども園との連携を推進できたか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 定期的なアンケート等を通して、相談を受けたり、児童会活動や学校行事等の体験活動を充実させることにより、生き生きと学校生活を送ることのできる環境づくりを行うことができた。 休み時間を含め、子どもと一緒に過ごす時間を多く取ることで、生活指導等に係る事前の対応に繋げることができた。 定期的な校内施設の安全点検を行うことができた。 地震や火災を想定した、年3回の避難訓練を実施することができた。 警察と協力し、不審者対応訓練を実施することができた。 校内ケース会議を実施する等、職員間の共通理解を図り、見通しをもって児童への対応を進めることができた。 養父校区では、6年生中学校登校や授業参観、各部会を実施した。本年度の学年部会は、「習得・活用・探求を促すノートやタブレット等の活用とその指導のあり方」「確かな学力のさらなる定着に向けた発達段階に応じた家庭学習の工夫」について協議することができた。 こども園とは、プール水泳や運動会等の交流、職員のケース会議への参加等、円滑な接続を意識して連携を深めることができた。
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 地域の教材や人材を活用した学習が進められたか。 PTA、学校運営協議会、ボランティアグループ等との連携が進められたか。 オープンスクール、学校・学級通信の発行、ホームページ等で学校の様子を伝えられたか。 家庭と連携して「そうあんくんの日」の取組を進められたか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校区内を探索する1年生歓迎遠足や地域指導者によるクラブ活動、福井建設様の大型重機見学等、多様な教育活動を展開することができた。 「総合的な学習の時間」を中心に、地域人材の活用を進めることができた。地域の方と新たに繋がることができ、大きな成果となった。 地域教材をさらに生かせるよう地域教材を開発していきたい。また、効果的にICTや思考ツールもさらに生かしていきたい。 PTAの皆様には、奉仕作業やスキー教室等でもたくさんのご支援をいただき、積極的に協力いただけた。 やぶっ子ちよこつと応援団の皆様をはじめ、たくさんの方のボランティアの方に関わっていただき、教育活動をすすめることができた。 学校運営協議会の協議を踏まえて、教育活動を進めることができた。 オープンスクールやホームページを通して、学校の様子を発信することができた。学校だより、学級通信を定期的に発行し、情報発信することができた。 「そうあんくんの日」の取組について、研修担当者や研修部会を中心に、取組のバリエーションを模索していく。さらには、生活とも関連しているので、生活指導部とも連携し、両輪で取り組んでいきたい。
教職員の 資質向上	<ul style="list-style-type: none"> 教員としての資質や実践的指導力を高めるために研修ができたか。 体罰をなくし、児童と心の通い合う温かい人間関係が構築できたか。 会議や研修の効率化、情報や物品の整理など、業務改善は図れたか。 超過勤務時間を削減し、ワークライフバランスを実現できたか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 日常的教科実践のスキルアップをしていくことも重要だと感じる。教師自身が、指導方法の引き出しを増やすことが大切である。 研修を中心として、指導方法の改善に努め、分かりやすい授業の推進に努めた。 児童への声かけや日記やノートへのコメント等、子どもとの繋がりを深める取組を大切に行った。 水曜・金曜の定時退勤日を意識して勤務することができた。 校務分掌の人数を増やしたことにより、負担軽減となり、子どもと向き合う時間を増やすことができた。 学校行事や様々な取組等が、ビルド&ビルドとなっている。大胆な削減と決断が必要である。精選を行いながら、本当に必要かどうかを見極め、スクラップ&ビルドとなるよう、取組を推し進めていきたい。 仕事の優先順位を決め、効率よく仕事を進めることを意識していきたい。

4 総合的な学校関係者評価

- それぞれの教室で子どもたちに乱れがなく、子どもたちが、主体的・意欲的に学習に取り組んでいることがよく伝わってくる。
- 各教室の雰囲気の良いことや、子どもに対する先生方の心配りを強く感じる。それが、子どもたちの姿に表れている。
- オープンスクール等での学校来校者の数から、学校に対する意識の高さを感じる。先生方と子どもたちとのつながりが、保護者へのつながりとなり、信頼関係がうまく結べているように思う。
- 先生方もよく学んでおられ、授業等に工夫も見られる。学ぶ楽しさを大切にした教育が進められていると感じる。たいへん喜ばしいことである。
- 地域資源、地域人材が豊富な地域である。地域としても、学校に対して可能な限り手助けをしていきたいと思う。

5 評価項目ごとの学校関係者評価

学校自己評価の適切さ
<ul style="list-style-type: none"> 相対的に見ると、先生方には様々なことに対して、よく頑張っており取り組んでいただいている。 「改善の方策」についても、先生方が今後さらに取り組んでいきたいという意欲として捉えている。頑張っていたいただきたい。 どの学年の子どもたちも楽しそうに学ぶ姿が見られ、教室の雰囲気がとてもよい。 先生方の子どもの対人に対する心配りをたいへん強く感じる。その先生方の姿勢が、子どもたちの姿に表れている。 鯉料理体験では、活動に参加した子どもたちから丁寧な感想をもらったが、さらにその単元の学習を終えて作られた、まとめの「リーフレット」もいただいた。学習した内容が、実によくまとめられているなど感心した。
<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちは全体の前に出ても、堂々と発表するなど、主体的に学ぶ姿が多く見られる。 子ども食堂に参加してくれている子どもたちに、食事前後のあいさつを依頼しているが、しっかりとその役割を果たしてくれている。普段から学校で人の前に立ち、意見をいう習慣が、その姿につながっているのだと感じる。
<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートなどを活用し、早期発見・早期対応に努めていると聞いて安心している。 子どもたちには、すべて大人に頼るといふことなく、自分たちで解決できる力や忍耐力もつけてほしいと願っている。 養父小学校では、いじめ防止に対する組織体制をしっかりと整えて対応されているので、今後もしっかりと対応いただき、続けていってほしい。
<ul style="list-style-type: none"> 栄養教諭など、専門的な知識を学べることは有意義であると思う。自分の身体や健康について考える大切な時間となり、また、きっかけとなっていることがよい。
<ul style="list-style-type: none"> 養父小学校が取り組まれているけん玉などは、こども園とのつながりを感じる場面が多々ある。 学校の雰囲気がとてもよく、上級生が下級生に優しく接してくれている。そのことは、こども園の保護者アンケートからも感じている。 養父中学校への6年生登校や、こども園との交流も定期的に位置づけられており、子どもたちにとって、とてもよい環境を整えておられると思う。 中学校登校では、他の小学校のたくさんの子どもたちの中に入り、広い環境へと参加することになる。そこに子どもたちがどのような思いを持って参加しているのかも気にかけていただけると有り難い。
<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの保護者がオープンスクールに来ておられる。学校への期待感や関心の高さを感じる。 学校運営協議会を開催する中で、授業参観の時間もとっていただいております。委員も授業を実際に参観することができている。先生方や子どもたちの様子がよく分かり、とても有り難く、学校との連携ができていからこそ感じている。 PTAとして、学校に対して、さらに保護者の関わりを増やしていけるとよい。 PTAの活動として、保護者自身の知識をアップデートするような機会を持てたらと考えている。 保護者として、PTAとして、今後の有効な取組も考えていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> やぶっ子ちよこつと応援団としての学校への支援が、教職員の皆さんの負担軽減に大きな効果を挙げていると聞いて、たいへん喜んでいる。 これからも、できる範囲にはなるが、学校から地域ボランティアへ、どんどん頼ってもらえたらと思う。